

座間市市民協働課
平成 27.4.30 受付
第 号

相互提案型協働事業実施報告書

平成27年4月30日

座間市長 様

団体住所 座間市四ツ谷 718-1

名称 不登校・ひきこもり居場所あすなる

代表者氏名 貝澤恵美子

市担当課 青少年課

所属長 課長 井上和雄

教育指導課
課長 柵弘之

生涯学習課
課長 伊波俊行



次のとおり報告します。

1 事業名	座間市不登校・ひきこもり支援活動の推進
2 事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input type="checkbox"/> 市提案協働事業
3 選考年度	平成25年度選考 (平成26年度実施)
4 報告期間	平成26年4月1日から平成27年3月31日まで
5 事業費	900,000円 (内座間市支出分 500,000円)
6 事業概要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	<p>26年度は関係団体の連携強化と専門家による研修、学習支援、及び社会体験を基本とした活動を推進していく。この活動によってあすなるの活動の周知と地域のネットワーク作りに繋がっていくものと考えられる。現在は市民協働型事業であるが、将来的には、あすなるの家の公設民営を目指すことによって、不登校・ひきこもりの人達だけでなく、地域の幼児から高齢者の居場所として活用できるようにしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係団体(座間市内)との連携をより深めていく。 <ul style="list-style-type: none"> ① 座間市と講演会を開催 ② あすなる主催卓球大会(適応指導教室と合同) ・専門家による研修 <ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士による講座 ・講師による学習支援(4月～3月 8月は休み) ・あすなる通所の青少年達との社会見学
7 添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業記録写真 <input checked="" type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input checked="" type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他 ()

相互提案型協働事業評価シート

事業名	座間市不登校・ひきこもり支援活動の推進
-----	---------------------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	所期の目的は、十分達成できましたか。	
	協働事業として掲げた事業は達成できた。	事業目的は計画通り達成できた。
事業成果・効果	事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。	
	<p>今年度は来所の青少年達はやや落ち着いてきているが、訪問見学が増えあすなろの周知効果があったと考えられる。</p> <p>3月8日に実施した西野氏講演会は70名余の出席があり、アンケート結果には、あすなろのような居場所の必要性を訴える感想等が多くあり、改めて事業の必要性があると考えられる。</p>	<p>・周知方法を広報・ホームページ・市内施設掲示及び配布・タウンニュース・自治会回覧・研修会等でのPRなどを利用して、参加者が目標数に達することができた。</p> <p>・会場の確保については、スムーズに確保できた。</p>

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。	
	今年度は市との共催の講演会があり担当課と綿密に検討を重ねる事ができ、当日及び当日までの準備や実施が円滑にできた。	事業を共に実施したことにより、共通の認識を持つことができ、理解が深まった。

事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	
	今年度は過去2年間の事業に比べると、外部に向けての事業は少なかったが今年はずなろに通所の青少年や保護者にむけて充実を図るという事で、臨床心理士によるスタッフスキルアップの講座や青少年達の社会見学を実施した。この事業についても実施前後に担当課に連絡して検討を重ねた。	進行管理については、その都度情報交換を行い、準備・進め方などを検討しながら実施できた。
対 等 な 関 係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	
	常に担当課と相談し検討をして対等に意見交換ができた。	協力して事業を対等な立場で実施することができた。
相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	組織の違いをお互いに理解しあい、意見を出し合うことで信頼感が生まれ事業を実施することができた。	それぞれの役割を認識し、意見を出し合い事業の実現に向け、協力して実施できた。

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果すことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	<p>(団体の役割)</p> <p>通常活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事作り・絵手紙教室・卓球練習 ・相談業務・HP作成・あすなろ便りの発行 <p>他の機関との交流</p> <p>(うどん打ち会・餅つき会等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座間市民ふるさと祭りバザー部門参加 ・市と共催の講演会の実施 ・あすなろ通所の青少年達とその家族と共に2回の社会見学の実施 ・スタッフスキルアップとして臨床心理士による2回の講座 	<p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報などによる事業の周知、公共施設等ポスター&チラシ配布 ・受講者の募集受付や会場の確保 ・イベント事前準備、前日準備、当日準備、参加協力、必要な用具の貸し出し ・会議の開催と出席、共催事業の企画・立案の協力や助言

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適 正 さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	協働事業の役割は適正であった。	適正であった。
実 施 結 果	設定した役割分担を果すことができましたか。	
	<p>通常活動の実施 食事作り・絵手紙居室・卓球練習 学習支援・パソコン等 相談業務・HP、あすなろ便り作成 うどん打ち会・餅つき会・卓球大会 による他機関との交流 適応指導教室つばさ・子どもと生活 文化協会 臨床心理士によるスタッフスキルアッ プ講座（2回） あすなろ通所の子ども達や家族との 社会見学（2回） 座間市民ふるさと祭りバザー部門参加 市と共催の講演会の実施</p> <p>以上予定通り実施することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担を実施できた。 ・「講演会」について、目標とする参 加者数をほぼ達成できた。
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。	
	<p>講演会の申し込み問い合わせ等担当課 が受け持ってくれた事で、予定してい た参加者の出席数にほぼ達することが 出来た。また出席者の内容が関係者だ けではなく、広い分野からの参加者が あり、不登校・ひきこもりに関して周 知効果があったと考えられる。 また、あすなろの家への訪問や問い合 わせが増えてきた。</p>	<p>協働事業を通して、関係機関・地域の 他団体と交流を図ることができた。</p>

4 今後の具体的な展開

<p>事業の波及効果</p>	<p>今後、実施事業をどのような形で展開していくことが望ましいと思いますか。</p>	
	<p>(団体の考え)</p> <p>神奈川県青少年白書（平成25年度版）によると、神奈川県不登校・生徒数（小・中学校）8829人高等学校は4860人でともに3位となっている。また、いじめ・暴力行為の発生件数も多くなっている。</p> <p>また、ひきこもりの若者の推計数は全国で69万6千人神奈川県で約5万3千人となっている。</p> <p>今、学校でも社会でもいろいろな支援組織が作られてきているが、まだまだ人的にも財政的にも問題を抱えており充分とは言えないのが実情である。</p> <p>あすなろのような小規模団体としてはそのような青少年達を少しでも精神的にも体力的にも生きる力を培って欲しいと「居場所」としての活動をしてきました。3年間協働事業として座間市の助成によって「居場所」として認識されてきたのではないかと考えられます。しかし、今後のあすなろを考えると、財政難・スタッフの高齢化は確実であり継続問題についてスタッフ全員の意思確認をしたところ「継続」はしていきたいという結果になった。そこで、青少年課・教育研究所・生涯学習課と検討会をかさねてきました。市としての財政的援助は今後は難しいという事なので、では継続場所の検討として担当課から公民館等の使用や老人憩いの家の使用について提示がありました。またあすなろとしても2件の場所についても訪問検討をしました。しかし、「あすなろの家」の隠れ家的存在は捨てがたいものがあり、結果的には子育て支援団体「アクティブママ」がこの家で活動をしたいという提案があり、あすなろと共存して活動することになりました。あすなろの家での継続は可能となったが、家の3分の1の面積分をあすなろで使用となり、従来より縮小した活動となります。県央地区は不登校ひきこもりの当事者や保護者のための居場所がないという事もあり、この「あすなろの家」を居場所として求めてくる青少年や保護者のためには、この小さな灯でも継続し、なお公設民営の夢を追い続けていきたと心から思います。</p>	<p>(市の考え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県や関係機関、他団体とネットワークづくりを進めるとともに、相談業務については連携した支援を行う。 ・今後も講演会や交流事業の開催について、協力し実施していく。 ・公設民営化については、担当課と市民協働課を含めた中で団体と検討を重ねた結果、委託は行わない。

最後に川崎の子ども夢パーク所長であり「フリースペースたまりば」の理事長西野氏講演会の参加者のアンケートからの感想を掲げます。

■ プレイパークかフリースペースなど、子どもが安心して遊べる場所を身近につくっていただけたらと思います。気づいた人からはじめていかなければ・・・ですね。今日集まった人達がつながって座間にも居場所ができたら・・・

■ 座間市に「夢パーク」を作ってほしいです。大人もまきこんで“思い切り遊ぶ、失敗から学ぶ、面白い事をたくさん楽しむ”この事を大人に思い出してほしいですね。

「たまりば」のような施設が欲しいとPDFから強く感じました。親が幸せでなければ楽しい家庭（居場所）がつかれなかったら、子ども達が健やかに育てられないと思いました。ありがとうございました。